

日々 往来



大山 陽久

遅ればせながら、新年おめでとうございます。今年の年頭あいさつでは「地方創生元年」との言葉が飛び交い、皆それぞれ夢や希望を抱いたと思いますが、皆さんを持つものは、夢と希望、あるいはどうですか？

「希望学」という学問を提唱した東大社会科学

研究所立田有史教授によると、「夢」と「希望」は、より高い充実感を得られる確率が高まる、ものであります。同教授によると、この二つの概念を見ることで、意識的に見たいと思って見るものではありません。これが見たいと思って見るものではありません。これに対し、「希望」とは、「行動によって何かを実現しようとする気持ちは」「ある特定の目標があり、その実現に向けて不斷に努力していくこと」と、自らの行動を伴つものです。

鳥取における地方創生を実現しようとすると、鳥取においても、単なる「夢」で終わらせないよう、皆が具体的に行動していくことが、その実現性を高める前提となります。創生元年とは、その最初の一歩を踏み出すべき年でもある、いわゆる努力としても、必ずしも希望が実現できるとは限りません。ただ、その実現に向うか、まさに我々一人一人が行動していかなければ、人の今年の決断にかかる。すなわち希望を持つこと、していることを忘れてはなりません。

（日本銀行鳥取事務所長）